

# 平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立豊平中学校
-----	------------

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 給食時間や関連する教科等を利用し、それぞれの職員が食育の取組を行っているが、それらを関連付けながら進めることについては不十分である。（全体計画や年間計画の見直しが必要）
- 食べることに意欲的な生徒が多く、給食で地域の野菜等が使用されたり、郷土料理を味わったりすることにも興味をもっている。
- 全体的には残菜もほとんど無いが、個々でみると、苦手なものを極端に減らす、全く食べないといった課題もある。また、実際に食事作りに関わったり、健康を意識して食べたりすることは少ない。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

学校給食や地域の食への興味関心を高め、食べる意欲につなげる。

- 給食を楽しみにしている生徒の割合 95%
- 給食を残さず食べている生徒の割合 90%
- 郷土料理や地域の食材について知っている生徒の割合 85%

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

### 【取組 1】（テーマ）給食時間を活用して

- 日々の給食指導をはじめ、偏食やアレルギー等のある生徒については必要に応じ個別指導を行った。
- 体育健康委員会の生徒が、その日の献立や使用されている食材についての説明やクイズを行い、より興味を持って食べられるように取り組んだ。
- 年間の指導計画等をもとに、食に関するミニ指導を取り入れた。

### 【取組 2】（テーマ）教科等の学習と関連させて

- 昨年度に引き続き、第 2 学年家庭科での給食献立作成に取り組んだ。献立作成のポイントや作成中の献立についてのアドバイス、調理実習での試作については、教科担当教諭と栄養教諭との TT で取り組んだ。給食で実施する献立については、文化祭来場者からの投票で決定した。（文化祭会場に、生徒が作成した献立についての PR 資料を掲示）
- 「給食の量の調整が極端になっている」等の学年の実態から、第 1 学年の学級活動で「給食から成長期の食事を考えよう」の学習を行った。成長期の食事の大切さや、自分たちの実際の給食の食べ方について考え、その後につなげていった。

### 【取組3】(テーマ) 地域の食と関連させて

- 地域の食材について関心を深める機会として、北広島町ふるさと夢プロジェクトの一環として実施された、北広島町給食メニューコンテストに全校で応募した。更に、意識づけにつながるよう、入賞作品を学校給食週間に取り入れ、掲示資料の作成などにも取り組んだ。
- 毎月の「食育の日」の給食に、郷土料理を取り入れ（広島県内のものを中心に）、それに関連させて食育だよりや掲示資料などの作成にも取り組んだ。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組やレシピ等を、食育だよりで家庭に紹介した。
- ひろしま給食メニュー3品を10月の給食で実施した。  
(統一メニューについては、町食育推進部会で副菜を決定して実施)
- 体育健康委員会の活動を利用して、プロジェクトのPRを行った。
- ひろしま給食についての校内掲示資料や学級配布資料を作成し、給食時間を利用して指導を実施した。
- 夏季休業中の町学校給食調理員研修会を利用して、ひろしま給食メニューの調理実習・試食・意見交流を実施した。

## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

- 学期ごとの生活アンケートをみると、「給食を楽しみにしている生徒」「給食を残さず食べている生徒」の割合は、年間を通して90%以上で大きな変化はないが、日々の取組も含めて、自分の好みで給食の量を極端に調整したりすることについては、少しずつ改善されてきた。
- 「町内でたくさんとれる食材」についての問いには、全員が回答することができ、また夢プロ給食メニューコンテストに関する取組についても、「北広島の食材をそれぞれ感じることができた」「地域でとれるものがたくさん入っていてよかった」「北広島でとれるものがわかった」など、意識の高まりを感じさせるものもあった。

### 【課題】

- 取組については、「関心意欲づけ」の面が中心になっているので、今後様々な取組と結びつけながら、自分の食生活の改善に生かすことができるものにしていく必要がある。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

- 全体計画や学年別指導計画を再度見直し、全教育活動の中で、相互につながりのある取組が進められるようにする。